

# 文学館だより

令和 5 年 4 月 1 日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982-68-9511  
文責 日高 第 84 号

顕彰会会員の皆さま、全国の牧水ファンの皆さま、地域の皆さま、いつも牧水顕彰にご支援ご協力をいただき深く感謝いたします。今年度も変わらぬご支援よろしくお願ひいたします。

若山牧水記念文学館職員一同  
日向若山牧水顕彰会事務局一同

てい だん

えのくら こうそん

## 鼎談『牧水と書家榎倉香邨を偲ぶ』開催しました

昨年 9 月 17 日（牧水の命日）に開催予定だった鼎談（3 人で話をすること）をようやく開催することができました。書家榎倉香邨先生は 60 歳を過ぎてから牧水を知り、それ以来ずっと牧水短歌を作品にして来られました。昨年 1 月に亡くなるまで生涯現役書家として書き続けて来られました（享年 99 歳）。榎倉先生と牧水を偲んで、山桜の季節に開催の運びとなりました。県内外から約 60 名の来場をいただき、「仮名書を習いたくなつた。」と言って帰られる方もいらっしゃるほどでした。

### 鼎談『牧水と書家榎倉香邨を偲ぶ』

日時 3 月 21 日（火）

会場 牧水公園 ふるさとの家ホール

鼎談者 書道香瓔会 理事長 岩永栖邨 氏  
若山牧水記念文学館館長 伊藤一彦 氏  
日向若山牧水顕彰会会長 那須文美 氏



那須会長 伊藤館長 岩永栖邨氏



写真 左 鼎談風景

写真中央 客席風景

写真 右 文学館企画室鑑賞



岩永栖邨氏のことばを一部抜粋して紹介します。



榎倉先生の作品からひとつ選べと言わされたらこれを選ぶ、と紹介された『孤獨の瞳』（写真左）。榎倉先生 84 歳の作品。

ごつごつした難しい漢字がちりばめられている

歌の生命を宿している

「雲」の字を生で見たら吸い付けられる

変体仮名にするか、やへめたと書かない手もあるが、榎倉先生は牧水のうたをほぼ現物通りに書き続けて来られたと力強く話されました。

そして次のように結ばれました。

榎倉先生はもっていたイメージをはるかに超えた人だった

公開の場で書く

書き姿を見てほしい

筆の動きが美しい

机で書く

流れに見せ場がある

立って書く

横から書く

歌集を左手に持って一気に書く

緩急抑揚が美しい

メロディー・リズム・ハーモニー

(流れ) (ふくらむ, しまる)

(疎密)

空気感を味わってほしい



榎倉香邨書  
「あくがれ」

機会ある度に作品を公開し、榎倉香邨先生の功績を伝えてまいります。

# 日向市内牧水歌碑巡り、御鉢ヶ浦牧水歌碑祭を行いました

開催日 3月27日（月）

参加者 日向若山牧水顕彰会理事  
日向市教育委員会担当職員  
文学館職員

日向若山牧水顕彰会細島地区会員（御鉢ヶ浦牧水歌碑祭参加）

コース 若山牧水生家 ⇒ 東郷総合支所 ⇒ 旧福瀬小学校 ⇒ 権現崎 ⇒  
米の山 ⇒ 馬ヶ背休憩所 ⇒ 御鉢ヶ浦（歌碑祭） ⇒ 日向市駅前  
あくがれ広場 ⇒ 若山牧水生家



【東郷総合支所】 冠山を背に、ソメイヨシノと山桜の下に佇む歌碑。最も大きな歌碑として知られ、20トンの岩を上渡川から運んだといいます。



【権現崎公園】 遊歩道の行き着く先には海。そこに鎮座する歌碑。牧水先生の姿を投影しているかのようでした。酒を注ぐ理事の姿を見つけました。



【御鉢ヶ浦牧水歌碑祭】 細島地区顕彰会会員 12名の方々と合流し、歌碑祭を開催しました。顕彰会会長あいさつの後、全員で献酒。今後、牧水ゆかりの地での歌碑祭開催のきっかけづくりになったのではないかと思います。開催間近に率先して会場整備をしてくださった理事、理事の声かけに賛同してくださった会員の方々、当日早めに来られて掃き掃除をしてくださった方々、ありがとうございました。

## 第13回若山牧水顕彰全国大会～みなかみ大会に参加してきました

3月5日（日） 第13回若山牧水顕彰全国大会～みなかみ大会～  
6日（月） 若山牧水歌碑除幕式・献酒

牧水みなかみ来訪100周年を記念して、若山牧水顕彰全国大会が群馬県みなかみ町で開催され、日向市役所担当職員、顕彰会会長、文学館職員計5名で行って参りました。



### 【第13回若山牧水顕彰全国大会～みなかみ大会～】

若山牧水みなかみ紀行短歌大会表彰式

アトラクション

シンポジウム『みなかみ紀行100年～牧水の旅人と自然～』

伊藤一彦氏 若山牧水記念文学館館長

小島ゆかり氏 歌人 第5回若山牧水賞受賞

小島なお氏 歌人

田村吉廣氏 みなかみ町牧水会副会長



### 【若山牧水歌碑除幕式・献酒 / 猿ヶ京関所跡】

高き橋此處にかゝれりせまりあふ岩山の峠のせまりどころに 牧水

日向市駅前あくがれ広場に続き、全国で342番目の歌碑が誕生しました。

### 【金田屋旅館 見学】



牧水が泊まった  
「牧水の間」



みなかみ町牧水会の心温まるおもてなしを随所に感じたみなかみの旅でした。全国すべての牧水会の牧水熱を肌で感じ、心満たされた2日間でした。

出発の朝、伊藤一彦先生は次の歌を宿に残されました。

猿ヶ京去る朝さびし去りしのち再び訪はむ日を計画す 伊藤一彦